

# 中学生海外派遣研修リポート②

先月号に引き続き、研修の成果をご覧ください。

## 触れ合う手と気持ち

青木 美代子(柳作第1)

- ※原案可決
- 平成12年度黒崎町方ス事業会計補正予算第2回(議案85)
- 収益的支出を240万円増額し総額8億3583万2千円とする。
- ※原案可決
- 平成11年度黒崎町水道事業会計決算認定について(議案86)
- 企業会計決算報告を閲覧ください。
- ※認定
- 平成11年度黒崎町方ス事業会計決算認定について(議案87)
- 企業会計決算報告を閲覧ください。
- ※認定
- 町道須上線改良舗装(第5工区)工事請負契約の締結について(議案88)
- 人札結果をご覧ください。
- ※原案可決
- 財産の譲与について(議案89)
- 地区公民館等を自治会に移管する。
- ※原案可決
- 平成12年度黒崎町一般会計補正予算第4回(議案90)
- 歳入歳出とも2300万円を増額し、総額73億6389万4千円とする。
- ※原案可決

「自然」と「優しさ」と「協調性」。この三つが今回の研修で私を支えたキーワードです。アメリカで出会った人とは全目を見て、ぎゅっと握り合う。忘れちゃいけないのが笑顔！ たったそれだけで心が和み、更に相手に触れるだけでお互いを信頼できるというのを感じました。

日本でも挨拶で握手は使われますが、大抵はお辞儀で、何だか敵かな感じがします。また、アメリカの人は突然居合わせた他人でも気軽に会話をします。私達にもたくさん話しかけてくれる人がいて、英語がわからないことに気が付くとゆっくり話してくれました。そんないつでも心を開いてくる様子と挨拶で、私はとても親近感を感じました。だから、私の一番心配していた英語を通してのコミュニケーションも慌てることなく、言葉がわからなければ単語とセスチャー

を使って、思ったよりも落ち着いて伝えることができました。そんな心の温かい人達が暮らしている町には、やはりたくさん温かさが詰まっています。毎日飽きがこない様な驚きと美しさに満ち溢れていました。

まずは「自然」です。アラバマは少し田舎ということもあり、とにかく緑が多い！ ずっとずっと遠くまで続く綿花畑は、日本では滅多に見られない程の広さで、水は畑の真ん中にある噴水の様な機械であげていました。また、綿花畑は少しだけ黒崎の枝豆畑や田んぼを思い出させました。畑だけじゃなく、山の緑も負けじと素晴らしい雄大なものでした。

そして人々の優しさのせいか、いろいろな所で動物が見られることに感心しました。パークングエリアに行けば野性のリスが木の実にじゃれまわっている。そこは特に自然を大事にしている所だったせいもあるのですが、川の水は何も汚染されずに綺麗に澄んでいて、たくさん魚とアメンボで光っていました。ま

ちでいっぱいです。今回の体験を無駄にしないよう、少し新しくなった自分に更に磨きをかけていこうと思います。

アメリカで出会った人とは、ぎゅっと抱き合っただけです。意味は、きつと、大好きです。また会います。私はそう思います。

かけがえのないアラバマ

五十嵐 安奈(北場)

私はこの夏のアラバマ研修で、とてもすばらしい体験の数々をしてきました。

その中でも特に思い出になったことが四つあります。

一つ目はNASAの事です。初めての宇宙船の設計を手がけたチャリーさんが、とてもくわしく宇宙船について教えてくださいました。テレビでしか見たことがない私にとって、体験者に話を聞くという事は驚きの連続でした。

その中でも、初めて宇宙に行ったサルが、身動きのとれない筒の中で、点滴だけで栄養を取りながら生きていたなんて、考えた人間もすごいけど、生還できたサルはもっとすごいと思いました。

二つ目は、ヘレン・ケラーの生家へ行ったことです。

ヘレン・ケラーは三重苦というハンディーキャップを持ちながらも、サリバン先生との出会いをきっかけに、自分の努力で大学まで卒業した後のすばらしい活動の記録が展示してありました。

中でも直筆の手紙は、目が見えない人が書いたとは思えないほどのものでした。

そして、言葉を取り戻せるきっかけとなった井戸を見ることのできて、とても感動しました。

三つ目は、アセスズというところでの地元の人々との交流会の事です。

見ず知らずの国の人との交流

を、使ったサルが、身動きのとれない筒の中で、点滴だけで栄養を取りながら生きていたなんて、考えた人間もすごいけど、生還できたサルはもっとすごいと思いました。

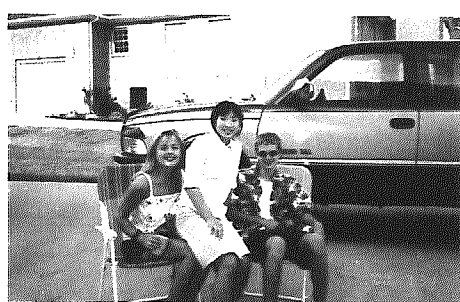
は、会ってみるまでも不安でした。しかし実際会ってみると、地元の人たちは私たちのことを心から歓迎してくれました。私たちが溶け込みやすいように積極的に話しかけたり、ゆっくり分かりやすく話してくれました。それがとてもうれしかったです。

もしこれが逆だったら、私はきっと異邦人を見るような感じに接していたと思います。この体験から私は自分の心の狭さを痛感しました。

四つ目は、ホームステイの事です。

最初、私は四日間ちゃんと生活できるか不安でいっぱいでした。

しかし、ハドソンさんたちは、積極的に何でも話しかけてくれて、分からない言葉があると、日本語の辞書を使って私たちに分かりやすく話してくれたので、はじめの不安感もなくなつて、とても安心しました。でも、まだ辞書を使っただけの会話が多く、単語でしか気持ちを伝えられない自分がいやになりました。



ホームステイ先にて(中央が青木さん)

た、大きな蛇やトカゲ、逃げて見ることができませんでしたが、鹿もいました。夜の虫の鳴き声はうるさい程です。ホームステイ先では輝かしい程の蛍を見て、バスからはたくさん牛や馬、羊が見えました。

しかし、日照り続きでいろいろな問題を抱えているそうです。自然が大規模な分、問題も大規模になるということを実感しました。

次のキーワード「優しさ」です。始めに書いた挨拶も優しさを感じたのはホストファミリーからです。他県の子と組んでホームステイしたのですが、私達が何かしたいと言えはその通りにしてくれるし、何か

は、会ってみるまでも不安でした。しかし実際会ってみると、地元の人たちは私たちのことを心から歓迎してくれました。私たちが溶け込みやすいように積極的に話しかけたり、ゆっくり分かりやすく話してくれました。それがとてもうれしかったです。

もしこれが逆だったら、私はきっと異邦人を見るような感じに接していたと思います。この体験から私は自分の心の狭さを痛感しました。

四つ目は、ホームステイの事です。

最初、私は四日間ちゃんと生活できるか不安でいっぱいでした。

しかし、ハドソンさんたちは、積極的に何でも話しかけてくれて、分からない言葉があると、日本語の辞書を使って私たちに分かりやすく話してくれたので、はじめの不安感もなくなつて、とても安心しました。でも、まだ辞書を使っただけの会話が多く、単語でしか気持ちを伝えられない自分がいやになりました。

そうすると、みんな嫌な顔ひとつせず笑顔で分かるまで説明してくれました。

それから、ハドソンさんを通して知り合えた、おばあさん、ライチェル一家も初めて会ったにもかかわらず、前からの友達のように親しく接してくれました。

そしてなにより辛かったことは、別れでした。たった四日間一緒に過ごしただけに、本当の家族の様に接してくれたから、別れる時も本当の家族と別れる様に辛く悲しくて、涙が止まりませんでした。

私がこの研修を通して得られたことは、人との出会いの素晴らしさと人から親切にされた時のうれしさです。これをきっかけとして、私は一つ一つの出会いを大切に、思いやりのある人になりたいと思いました。

帰国してからもハドソン家と交流がもてるということは、私にとってかけがえのないことです。

そして、大人になったら、素晴らしい思い出たくさん詰まったアラバマに再び行きたいと思っています。

このような機会をくださった黒崎町の皆様、本当にありがとうございました。

「Please tell me」と何でも質問しました。

ホームステイ先にて(前列右から3番目が五十嵐さん)



ホームステイ先にて(前列右から3番目が五十嵐さん)

言いたいんだけど英語がわからない時は、辞書をひいたりして、くだらないことでも熱心に聞いてくれました。相手の言うことがわからない時や、自分がへまをして、「Fratso」(大丈夫、気にしないで)と笑顔で軽く流してくれるのは、罪悪感を感じながらもとても嬉しかったです。

ホストファミリーの親戚が集まった時も、日曜日の朝に教会で会った人達も、みんな異国の私達を歓迎してくれました。わかりやすい英語で話しかけてくれたり、ある人は覚えてたの日本語で話かけてくれたり、住所交換をしたり等、様々な形で私達との交流を楽しんでくれました。一番嬉しかったのはホストファミリーとの別れの時です。別れが嬉しいというのは変ですが、迷惑のかけっぱなし、しかもたったの4日間の出会いだった私達のために別れを惜しんで泣いてくれたのです。ポロポロに。本当の家族の様に接してくれた日々が頭の中できり返り返り返し、私も泣いてしまいました。ポロポロに。

思い返せば、アメリカの人々は笑ったり泣いたりすることはあるけど、怒っているところを見たことは一度もありませんでした。